

は大地主神社と稱する。式内等舊社に『府中山王神社。府中村鎮座舊社也。』とあり、能登名跡志には、『府中村山王權現は神主大森氏也。毎歲四月中の申の日は祭禮也。利政公よりの神事にて、國府の大祭也。本宮（氣多本宮）へ神輿御幸あり。町中御領分一の大きな立物山あり。にぎはしき事おびたし。』と見える。

**フチウシユウ 府中衆** 前田利家の越前府中に治した時、その食邑三萬三千石、頒つて功臣を祿し、又銃手五十員を置いた。その主なる臣僚の名は利家夜話に見えて、千石前田五郎兵衛安勝・千石前田右近秀繼・千石青山興三吉次・八百石高島孫十郎定吉・二百五十石村井又兵衛長頼・二百二十石小塚藤右衛門（後淡路）・二百石近藤善右衛門・百八十石木村三藏・百五十石富田興五郎景勝・百三十石篠原勘六一孝・百二十石原田又右衛門・百石奥村助右衛門永福・百石富田興六郎重政・八十石片山内膳延高・八十石岡島喜三郎一吉・七十石岡田長右衛門・七十石木村久三郎・七十石北村作内を載せる。但し富田興五郎景勝に代へるにその父祿不詳富田興六郎景政を以てすべく、富田興六郎重政は當時尚山崎某であつたわけである。又此の外吉田孫兵衛・同長藏・中川清六・前田興十郎・大音藤藏・横山半喜・荒木善太夫・山崎庄兵衛・同彦右衛門・三輪志摩・姊崎勘右衛門・千秋主殿助・有賀桑六・笠間興七郎・千秋喜兵衛・齋藤忠左衛門・森太左衛門・九里甚左衛門・脇田兵部・出野金右衛門・青木善四郎・野村七兵衛・今村藤九郎・杉本四郎右衛門・同作左衛門・渡邊彦左衛門・川縁彌左衛門・野村六左衛門・齋藤久右衛門・水上三丞・山本傳

次郎・中村常喜・前波加右衛門・奥田庄左衛門・大村右文助・隠岐治部左衛門・和田善兵衛・河村五右衛門・河北彌左衛門・田邊將監・田内清右衛門・長田彌右衛門・半井新藏人・加藤宗兵衛・三輪藤兵衛・青木四郎兵衛・氏家彌三・井口茂兵衛・野々村庄八・久津見十兵衛・澤村伊右衛門・進藤三助・岡田兵内・杉江丹後・唐人民部・松原金太夫・渡邊左衛門・中村十右衛門を舊記に古府中衆と稱する。

**フチウテイ 府中郎** 越前南條郡府中にあつた前田氏の邸。府中は天正三年九月前田利家の封ぜられた地であるが、九年八月その能登に轉ずるに及び、子利長こゝに居り、以て十一年四月加賀石川郡松任に移封せられた時に至つた。この間前田氏の居つた所は龍門寺の地で、菟爾たれども壘濠を有し、その前面は北陸本道に臨んで居た。天正十一年近江柳ヶ瀬の役後、羽柴秀吉が利家を訪うて和を議したのも、亦この所であつた。

**フチキ 藤井** 鹿島郡高島庄に屬する部落。承久三年注進の能登國田數目録に、『藤井村、壹町、承久元年立券狀』とあり、又廻國雜記には、『藤井といへる所は浦ぢかき里なりければ波をみてよめる。浦近きやどりをしめて春ならぬ藤井の里も波になれつゝ。』と見える。

**フチキシンザエモン 藤井新左衛門** 初め源太夫。元祿十四年御歩となり、享保九年同小頭として新知百石を受け、十一年組外に列し、三十石を加へ、十五年五十歳を以て歿。子孫孫に世襲する。

**フチキツクナリ 藤井世均** 字は子秉、蘇軒と號した。金澤の人。夙に藩齋明倫堂に學び、詩を以て著れた。明治中越後に往いて中

等教育に従ひ、職を罷めた後北海道に住して子弟に詩文を授けたが、晩年舊里に歸り、大正六年十一月齡七十餘を以て歿した。

**フチキテイソウ 藤井貞三** 江戸住の御醫

師で、合方米二十人扶持を受けた。子孫貞三・貞三・貞元相繼ぐ。

**フチキトウエモン 藤井藤右衛門** 鹿島郡

在江の人。寛永十二年より寛文五年に至るまで十村肝煎であつた。その間前田利常に簡拔せられて改作の機務に參與し、明暦年間には七尾町小物成取立方役を勤め、又萬治年間百姓勢力方入精の廉を以て賞を受け、積年の功により終に乘馬を許されたといふ。寛文十二年九月七十餘歳を以て歿。

**フチキハスイ 藤井巴水** 加賀の俳人。元

祿六年鷹獅子集を撰じてゐる。その作句は北の山、喪の名残、卯辰集等に散見する。

**フチキホウテイ 藤井方亭** 諱は俊。伊勢

の人で、父を周朝というた。方亭江戸に出でて蘭醫宇田川玄眞に學び、文化七年その周旋によつて前田齊廣に仕へ、三十人扶持・銀十枚を受け、江戸在住を命ぜられた。後天保三年更に蘭書翻譯の資として十人扶持を増され、弘化二年歿した。

**フチキミツモト 藤井光基** 尊卑分脈に豐

田次郎光廣の子藤井六郎光基能登國に住すとある。津田鳳卿は石川郡藤江村を藤井の轉じたものとして、もとの地に貫した人であらうとしてゐる。

**フチキモリヤス 藤井守安** 源平盛衰記に、

承安四年七月廿七日大内で相撲召合があつた時、頭左中辨長方朝臣その奉行となり、一番の相撲に左は加賀の住人藤井守安、右は因幡

の住人尾張長經を合はされたが、長經直に膝を突いて障りをいうた。こは内取の日に敗を取つて、守安の實力を知つてゐたから、敗へて決勝しようとしなかつたのであるとの記事がある。この相撲は百練抄に、『承安四年廿二日於院御覽相撲。廿七日相撲節大内。保元三年以後絶不被行也。』と見えるものであるが、古今著聞集十六に、『昔は禁中にて相撲の節を行はれ、諸國に強力の者を召れけり。安元より以來絶えて其名のみ聞ゆ。』とあるに併せ考へる時は、保元の戦亂以後相撲節會は行はれなかつたのを、承安四年再興せられたが、安元にまた廢せられたもので、安元は承安四年の翌年からであるから、藤井守安は希有の節會に召される光榮を得たのであつた。

**フツ 符津** 能美郡粟津郷に屬する部落。

**フツイン 弗隱** 名は善寧。もと大聖寺藩

士山本氏の出。那谷寺九代來榮を師として十代に住し、その書屋を如是庵というた。和歌を好んで權中納言持豊に學び、文化六年三月その産土神たる菅生石部神社に百首を献り、文政十年二月白山の歌百首を詠じて志良山百首を編した。天保八年十一月遷化、年七十五。

**フツカイチ 二日市** 石川郡横江郷に屬する部落。

**フツカイチ 二日市** 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

**フツカイテンリユウ 佛海天龍** 石川郡曹洞宗大乘寺四十八代の住持。長州の人、倉垣氏。八歳の時、功山寺棟外に受業し、後禪苗に攝津の妙法寺の閑居に參し、寛政七年永平寺に上り、翌年上陽大通寺に住し、信濃全久寺に移つた。次いで江都の靈運寺に住し、攝